

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-3  
青少年の健全な育成の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 青少年家庭課長 太田 均 電話番号 0852-22-5242

事務事業の名称	青少年を健やかに育む意識向上事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	青少年の健全育成に対する県民の意識が向上する	
事業概要	社会全体で青少年育成に取り組む意識を高める体制づくりを進めるため、青少年育成島根県民会議の諸活動等を通して、広く県民の理解を深め、学校や家庭、地域、関係機関・団体との連携を強化する。 「県民運動推進事業」：青少年育成県民運動を推進するための意識啓発や地域活動の支援を行うため、青少年育成島根県民会議に対して事業費等を補助する。 「広報啓発事業」：「島根県青少年の健全な育成に関する条例」の趣旨や内容、及び最近の青少年に係わる諸問題を周知するため、県民に対して広報媒体を活用した広報活動を実施する。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	青少年育成島根県民会議の会員数	目標値		1,050.0	1,070.0	1,090.0	1,110.0	人
	式・定義	青少年育成島根県民会議の会員及び賛助会員数	実績値	1,025.0	1,174.0	957.0			
			達成率	-	111.9	89.5	-	-	
2	指標名	しまニッコ!(スマイル声かけ) 県民運動推進者登録数(累計)	目標値		400.0	600.0	800.0	1,000.0	%
	式・定義	しまニッコ!(スマイル声かけ) 県民運動サポーター登録者数	実績値	104.0	868.0	1,941.0			
			達成率	-	217.0	176.5			

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	2,347	4,045
うち一般財源(千円)	2,347	4,045

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

・青少年育成島根県民会議の財政基盤強化(会員の拡充)に努めてきた。会員は新規加入3名、退会10名で前年比7名減の164名、賛助会員は新規加入189名、退会399名で前年比210名減の793名となり、合計で前年比217名減の957名となった。個人の賛助会員の占める割合が多く職場異動等に伴い継続した入会が難しい。また、高齢の会員もおり、高齢化を理由とした退会者も増えてきているため、財政基盤が不安定である。  
・平成27年度よりスタートした「しまニッコ!(スマイル声かけ) 県民運動」では、総会、フォーラム、各種会議等の機会を活用し、各地域で運動を推進する推進者の募集・登録を積極的に行い、推進者による各地域での運動拡大が進み、前年比1,073名増の1,941名の登録者となった。  
・強化月間における街頭啓発活動及び関係機関へのチラシ配布による広報啓発。7月「青少年の非行・被害防止月間」(76,000枚)、「フォトしまね」による広報啓発

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

「しまニッコ!(スマイル声かけ) 県民運動」を重点活動とし、具体的な取組を進めることができた。  
・大田市を会場とした青少年育成運動推進フォーラムの開催により、地域における青少年育成団体の連携、市町村民会議の活性化、県民会議の活動への理解・協力が進んだ。  
・青少年育成団体の実践者も含めた県民会議のあり方検討により、今後の県民総ぐるみによる青少年育成推進のための情報収集と方向性が示された。  
・メディア対策にかかる啓発活動により、フィルタリングの重要性について学校・家庭・地域設定への周知が図られた。  
・青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律の改正に伴い「島根県青少年の健全な育成に関する条例」の一部改正を行い携帯電話インターネット事業者への周知が図られた。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
- ・各地域における青少年による活動が増えつつある一方で同じ地域の活動でありながら、お互いの活動をあまり知らないという現状がある。また、活動が大人主体の企画になっていることも多い。
  - ・活動のノウハウや場所、運営資金、スタッフ確保、他地域との連携などの情報が少なく、活動の活性化や継続が難しい団体がある。
  - ・青少年育成に関心があっても動き出せない大人や企業がある。
  - ・青少年育成島根県民会議の活動が十分認知されておらず県民運動としての広がりが少ない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・青少年育成を推進する機関・団体が個別に活動しているケースが多い。
  - ・青少年活動の意義、青少年の活動を支える大人の支援のあり方についての考え方が様々である。
  - ・青少年活動や育成に係る情報が少ない。
  - ・青少年育成島根県民会議の事業内容と実際のニーズが一致しにくいものがある。
  - ・青少年育成島根県民会議の高齢化による脱会・新規会員の減少。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・青少年育成県民運動について広く広報し、県民総ぐるみで取り組むという気運の醸成をはかる必要がある。
  - ・各市町村における青少年健全育成にかかる取り組みの現状、各市町村民会議及び関係団体の組織・活動内容・課題等を把握する必要がある。
  - ・地域内外の青少年団体や大人、企業をつなぐ役割が必要。
  - ・青少年育成島根県民会議の組織、活動内容、財政基盤の確立について見直しを図る必要がある。

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・「しまニッコ!(スマイル声かけ) 県民運動」を健全育成のシンボリック活動として位置づけ、継続して広報を行い県民運動への理解と参加意識の醸成を図る。  
・「島根県青少年の健全な育成に関する条例」改正について各事業者へ周知徹底、電子メディアの有効活用について青少年及び保護者・地域・団体への広報周知を継続する。  
・児童福祉週間を機会として児童福祉の理念の周知と児童を取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図る。  
・子ども主体の青少年活動の推進と青少年育成に関わるネットワークづくりを中心に県民会議の事業(青少年主体の活動への助成事業強化、青少年活動のネットワークづくり、青少年育成推進フォーラムの拡充、青少年育成推進員配置事業の推進など)を展開し、実際の青少年の活動を県民に伝えることを通じて青少年の健全育成に対する県民の意識向上を図る。